

2019年12月期末 決算説明会

～想いを世界に、GMOリサーチ～

GMO RESEARCH

STOCK CODE : 3695

代表取締役社長 細川 慎一
経営管理本部長 森 勇憲

- 1 2019年12月期末決算概要
- 2 2020年業績目標
- 3 2020年事業戦略
- 4 <参考資料>

1 2019年12月期末決算概要

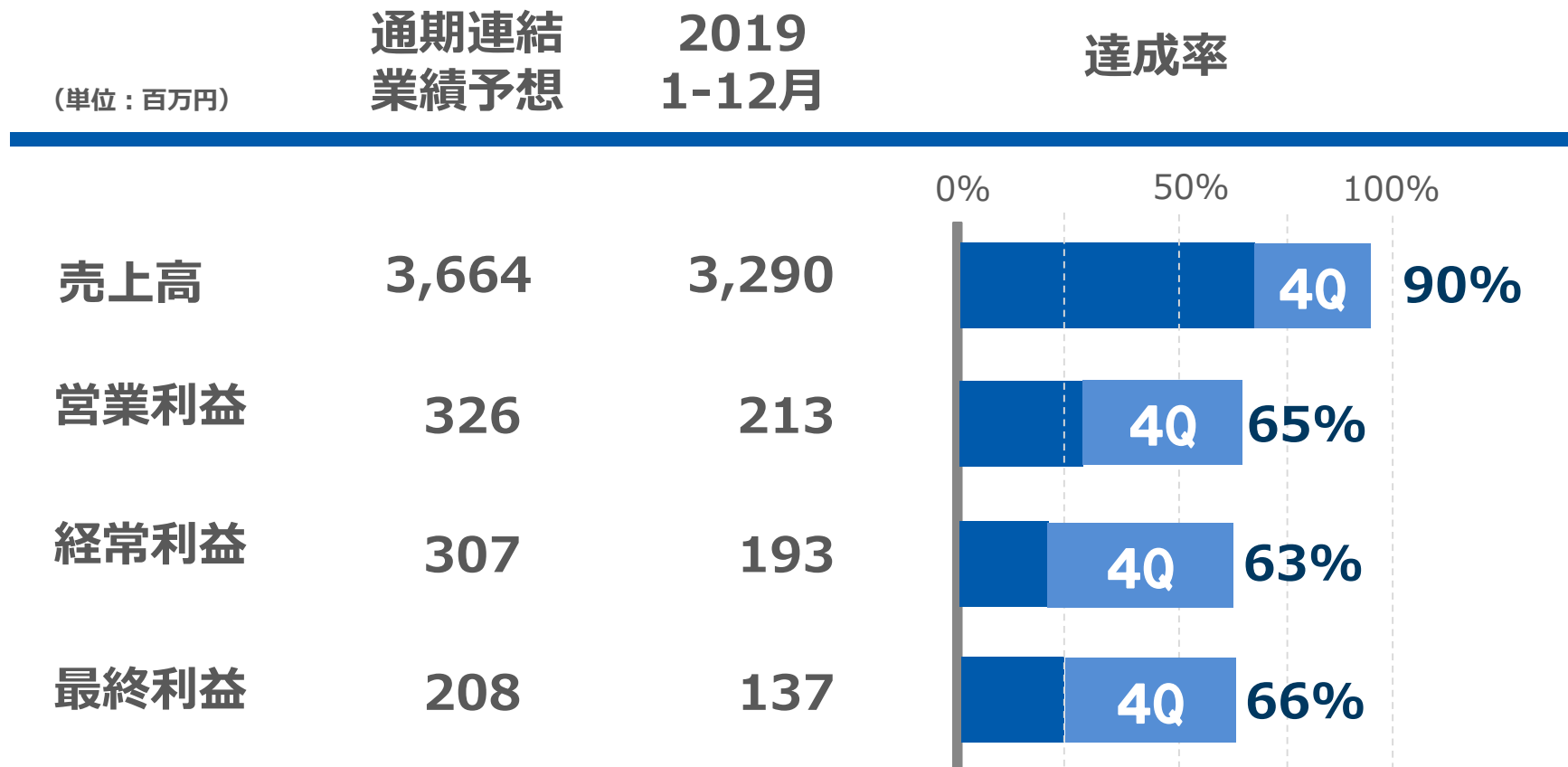
- 売上高成長率は+3.3%
- 営業利益は、第4四半期の売上伸び悩みにより、前年比▲14.2%
- 経常利益・最終利益は、営業利益減や為替影響により前年比マイナス

(単位：百万円)	2018 1-12月	2019 1-12月	前年同期比 増減率
売上高	3,186	3,290	3.3%
営業利益	248	213	-14.2%
経常利益	239	193	-18.9%
最終利益	148	137	-7.2%

■ 当初(2019年2月8日付)の業績予想に対して

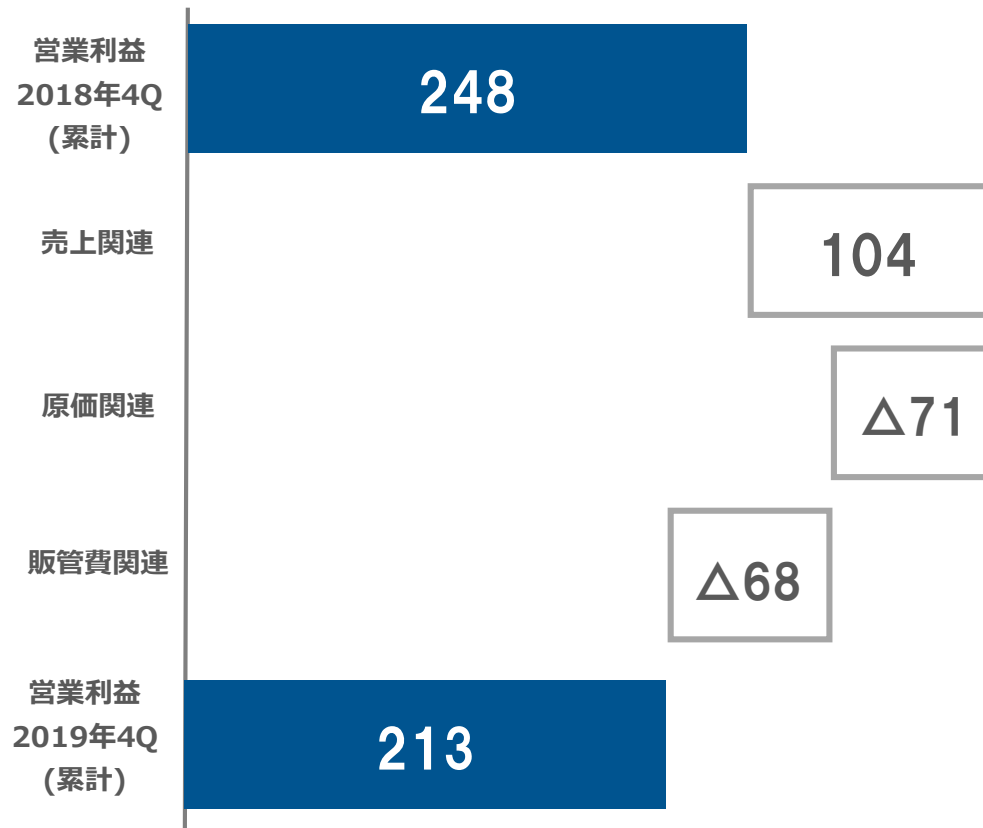
- 第4四半期の売上の伸び悩みにより、売上予想達成率は90%
- 各段階利益は、第4四半期の売上伸び悩みの影響により予想未達

※なお当社は、2020年1月27日に業績予想の修正を公表しており、修正後業績予想は、売上高3,290百万円、営業利益213百万円、経常利益193百万円、最終利益137百万円でありました。



- D.I.Yサービス、海外売上の継続した成長により、粗利で約33百万円増加
- 商品力強化のため販管費を68百万円増やしたが、第4四半期での売上の伸びを欠き、結果営業利益▲35百万円

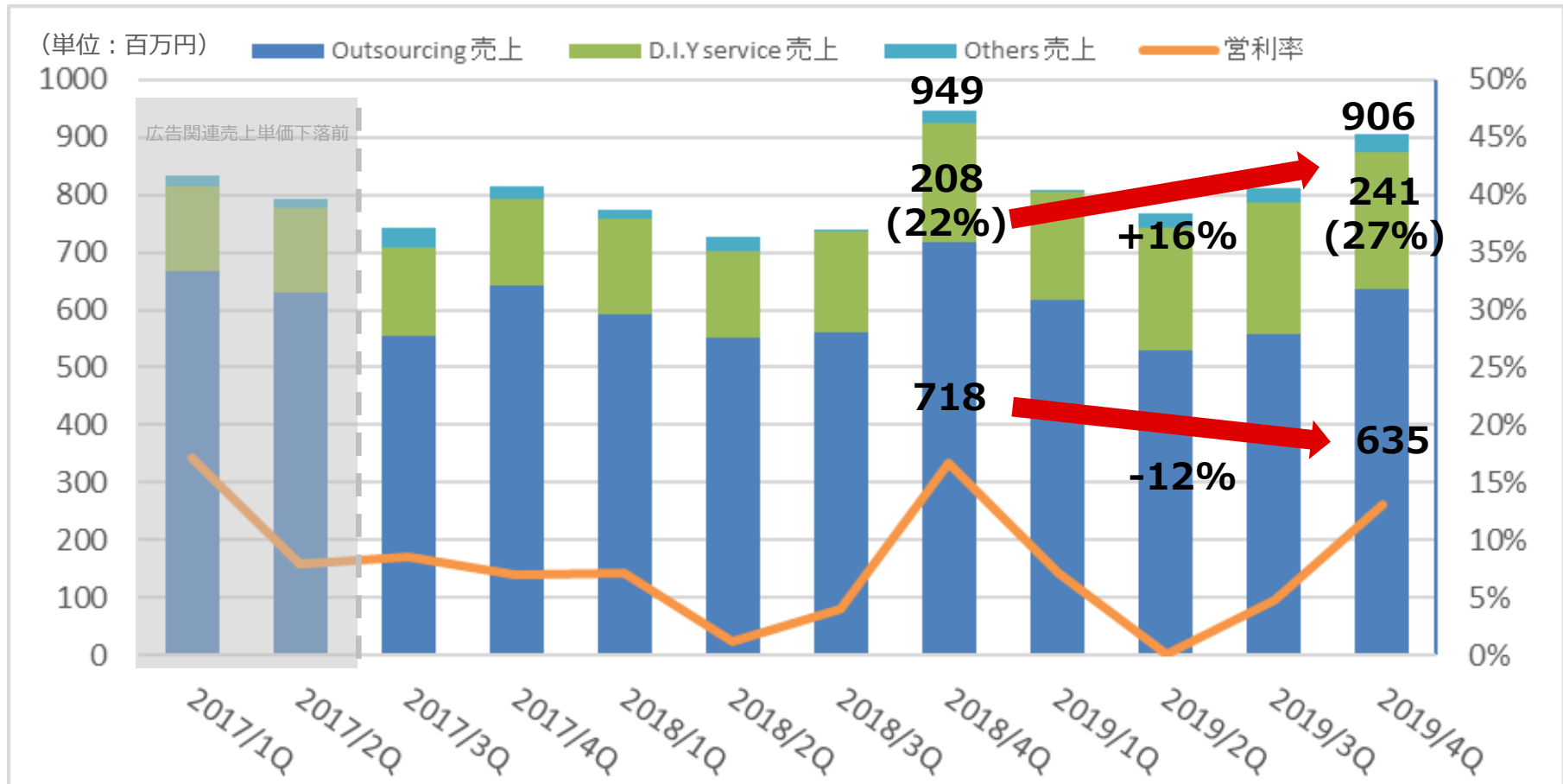
(単位：百万円)



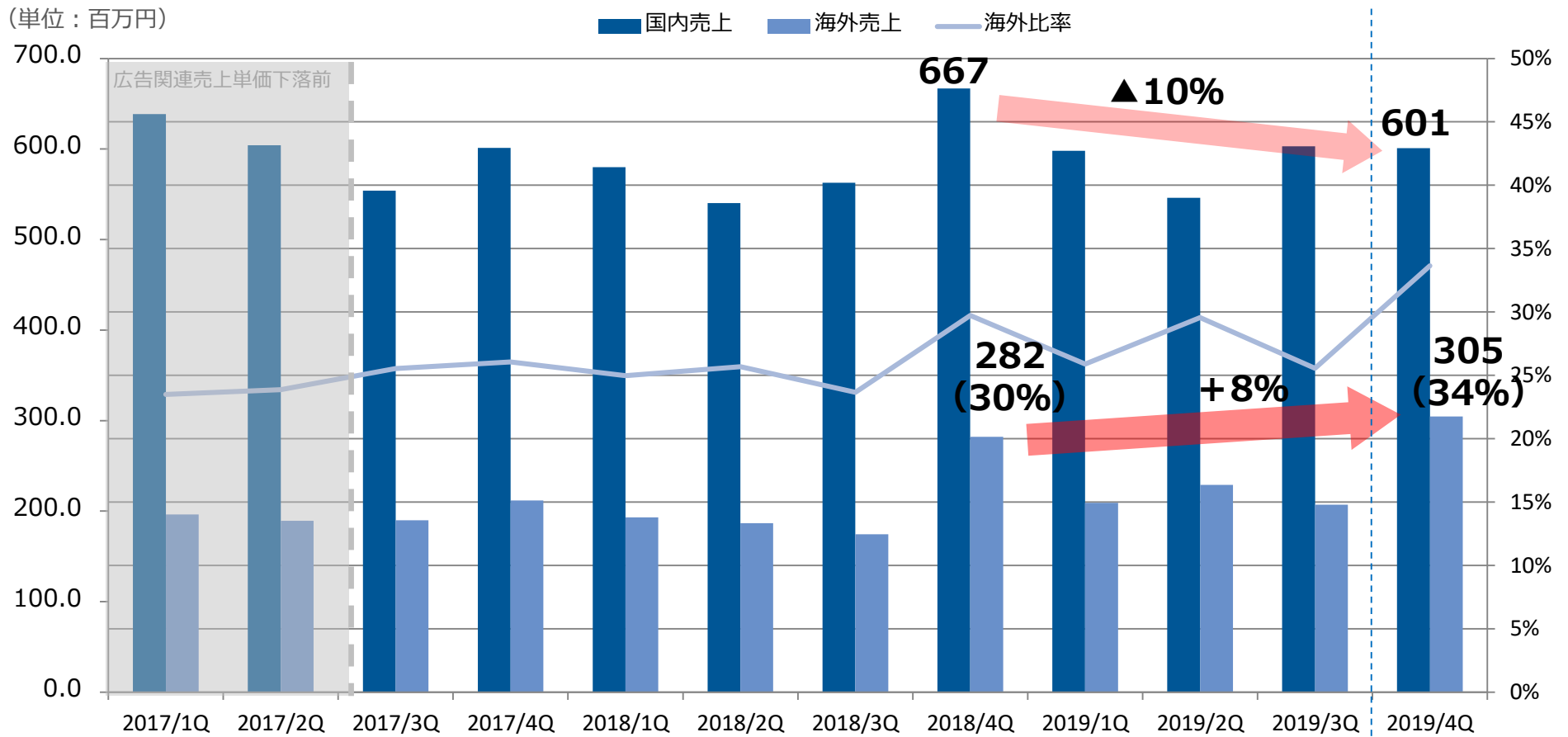
<主な増減要因>

- ・ **売上関連**
海外が売上成長を牽引。
- ・ **原価関連**
粗利は33百万円増加。ただし、高粗利率案件数の減少などにより、粗利率は約0.6%低下。
- ・ **販管費関連**
成長分野である海外事業の人員強化、およびアジアパネル開拓・整備に関連する費用を投下。
また、未回収売掛金に対する貸倒引当+5百万円。

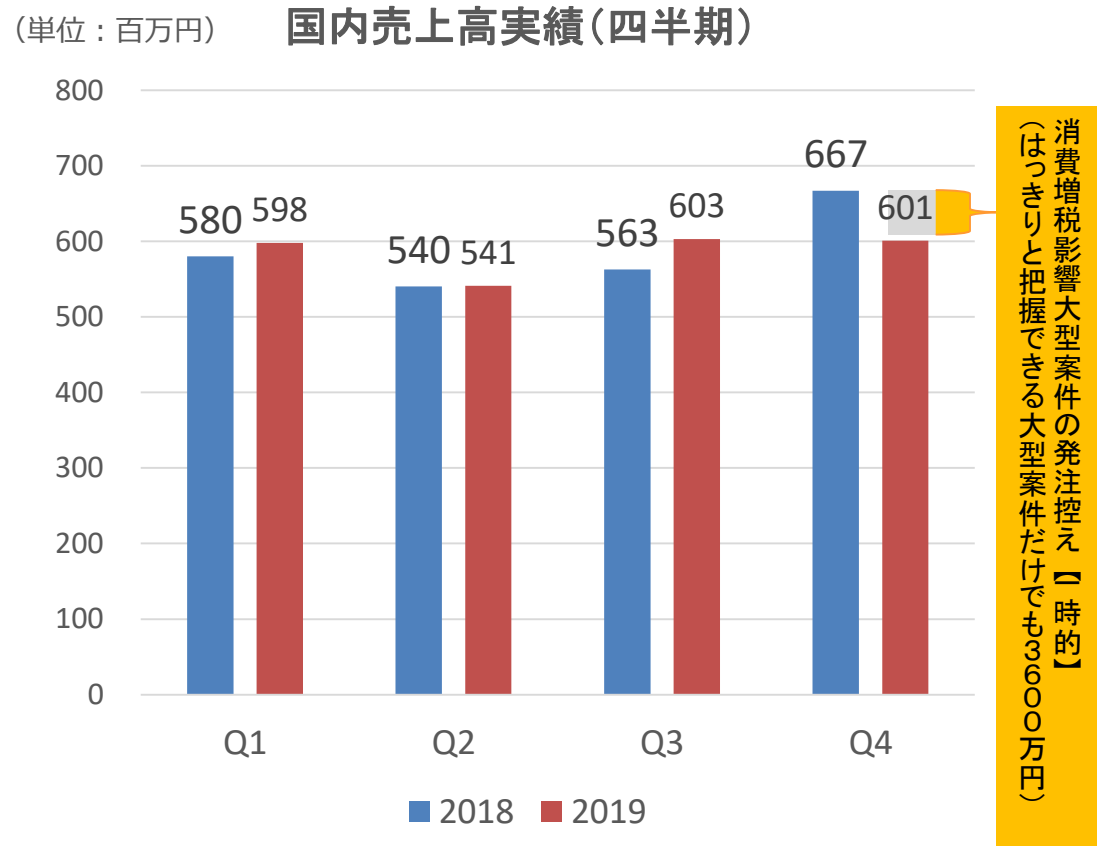
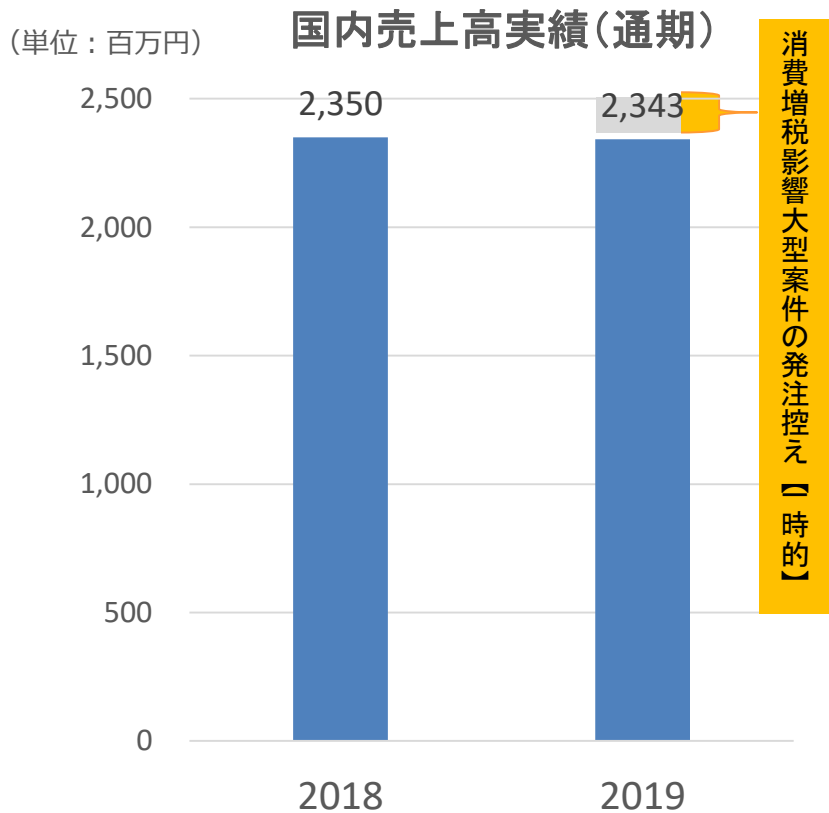
- アウトソーシングサービスは、前4Q比で12%（83百万円）減少
- D.I.Yサービスが前4Q比で16%（33百万円）増加し、売上高全体に占める割合が27%に伸長



- 売上高は前4Q比で国内▲10%、海外8%成長。海外は過去最高四半期売上を達成
- 4Qの海外売上比率は34%で、前4Qから拡大

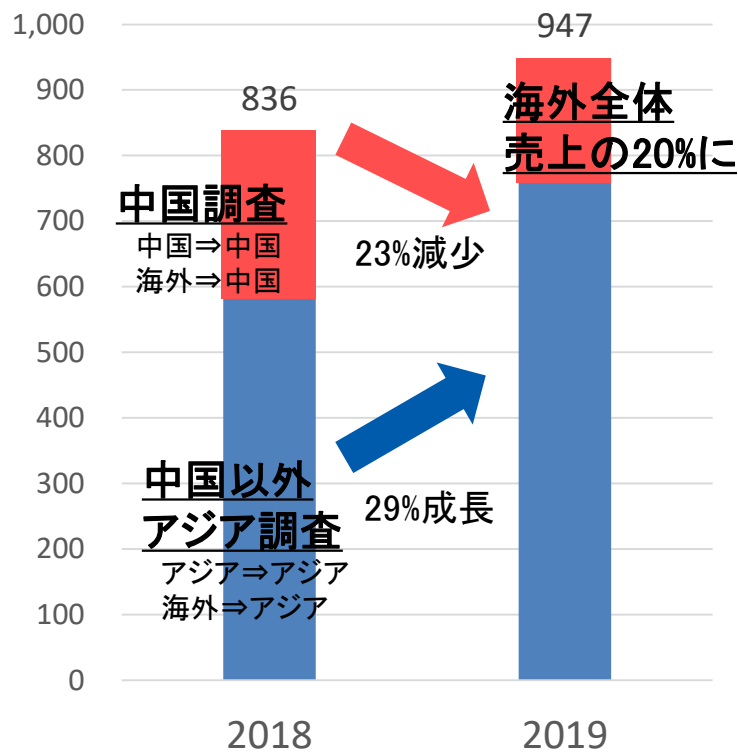


- 国内売上は、通期で▲7百万円(▲0.3%)
- 第3四半期までは堅調に推移していたが、第4四半期において消費増税による落ち込みや大型調査案件数の減少があり、通期では売上減

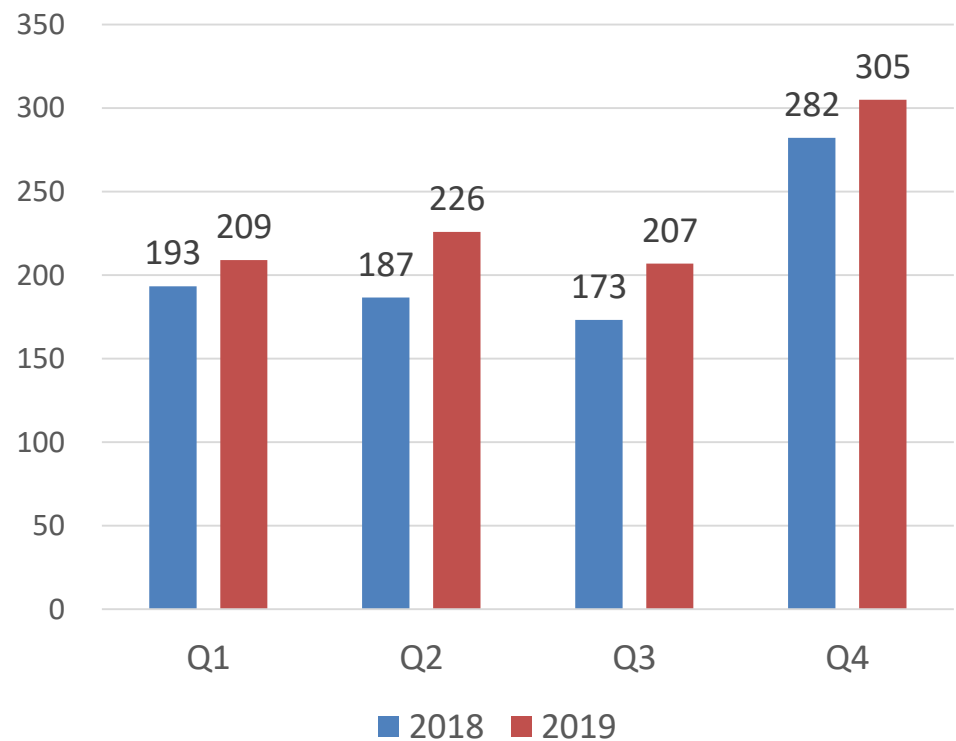


- 海外売上は、通期で+111百万円(+13.3%)
- 四半期ごとの売上高も順調に伸びているが、第4四半期については、特に中国地域の需要減や一部顧客からの受注の抑制等により成長率が低下
- 中国調査関連売上は海外全体の20%に（中国関連リスクは限定的に）

(単位：百万円) 海外売上高実績(通期)



(単位：百万円) 海外売上高実績(四半期)



2 2020年業績目標

- 売上は国内の安定成長の回復と海外の高成長を見込み10%増
- 各段階利益についても売上の増加に比例して増加すると見込んでいる

(単位：百万円)	2019 実績	2020 見通し	前年比増減額 (%)
売上高	3,290	3,630	+340(+10.3%)
営業利益	213	240	+27(+12.5%)
経常利益	193	220	+27(+13.5%)
最終利益	137	152	+15(+10.7%)

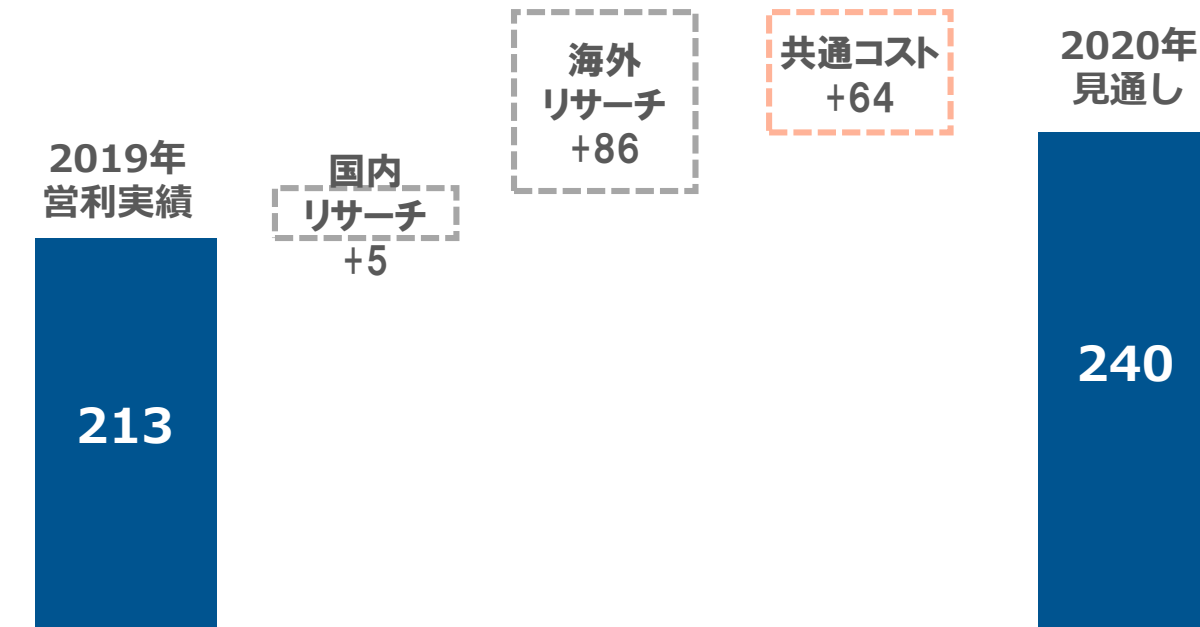
- 国内事業は、消費増税の影響での発注控えによる大型案件の受託件数の回復により、再び安定成長軌道に回復
- 海外事業は、中国以外のアジア各国でのパネル強化やD.I.Yサービスの伸びなどにより、引き続き高成長を見込む

(単位：百万円)	2019 実績	2020 見通し	前年比増減額 (%)
国内売上高	2,343	2,481	+138(+5.9%)
海外売上高	947	1,149	+202(+21.3%)
合計	3,290	3,630	+340(+10.3%)

- 国内は安定成長するものの、オフィス増床によるコスト増等の影響で、営業利益の伸びは一時的に低下する見通し
- 海外は、売上高の高成長により営業利益の伸びも高くなる見通し
- 共通コストは、システム整備強化やグローバル経営管理体制強化により増加する見通し

営業利益の増減要因イメージ

(単位：百万円)



3 2020年 事業戦略

想いを、世界に

Engaging people around the world

GMO RESEARCH

2020年は次の2点に特にフォーカス

1. アジアシフト（特に中国以外のアジア市場に照準を当てる）
2. データシフト

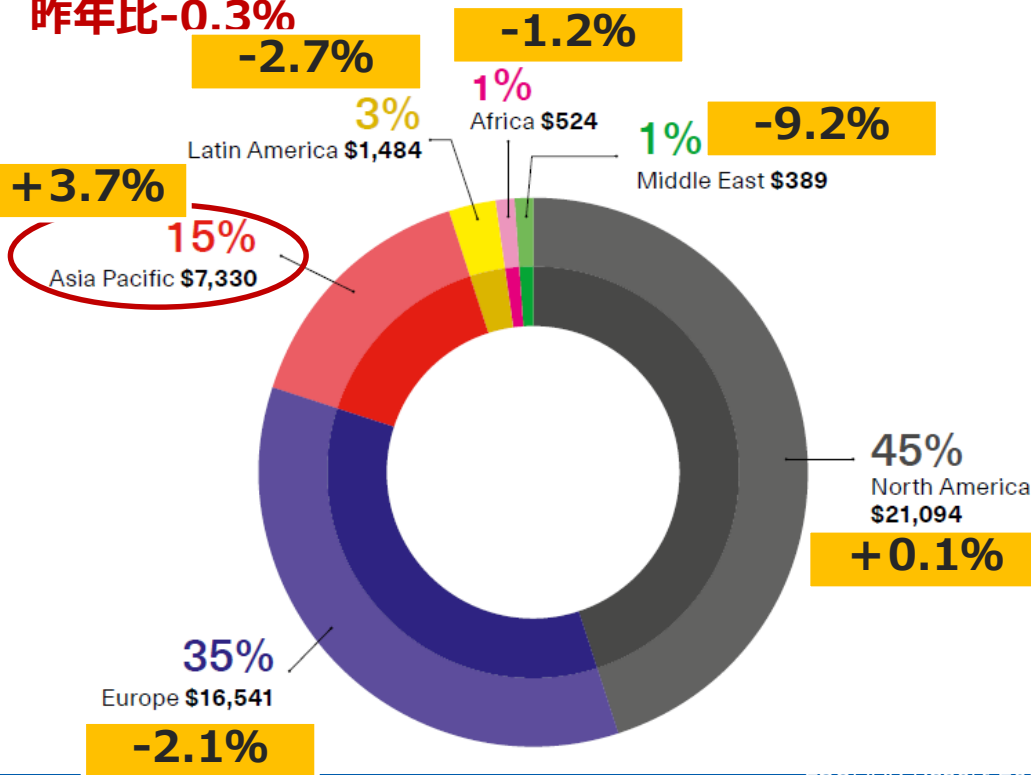
当社既存市場：
調査市場
* アジアシフト



調査周辺市場：
データ分析市場
* データシフト

世界調査市場 2018 **\$40.7B (4.4兆円)**

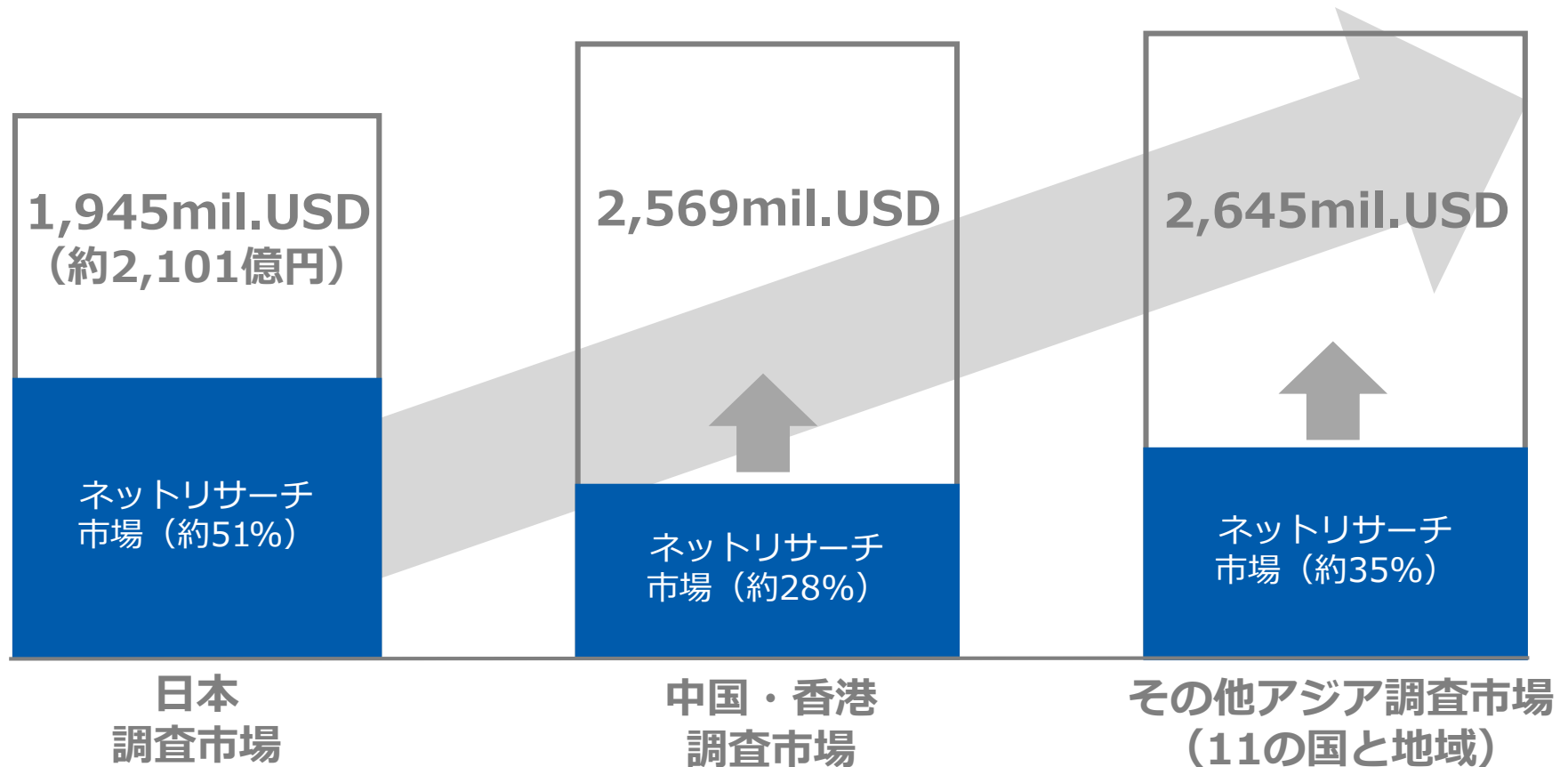
昨年比 **-0.3%**



「データ分析市場」は
39B(4.2兆円)
昨年比 **+10.3%**

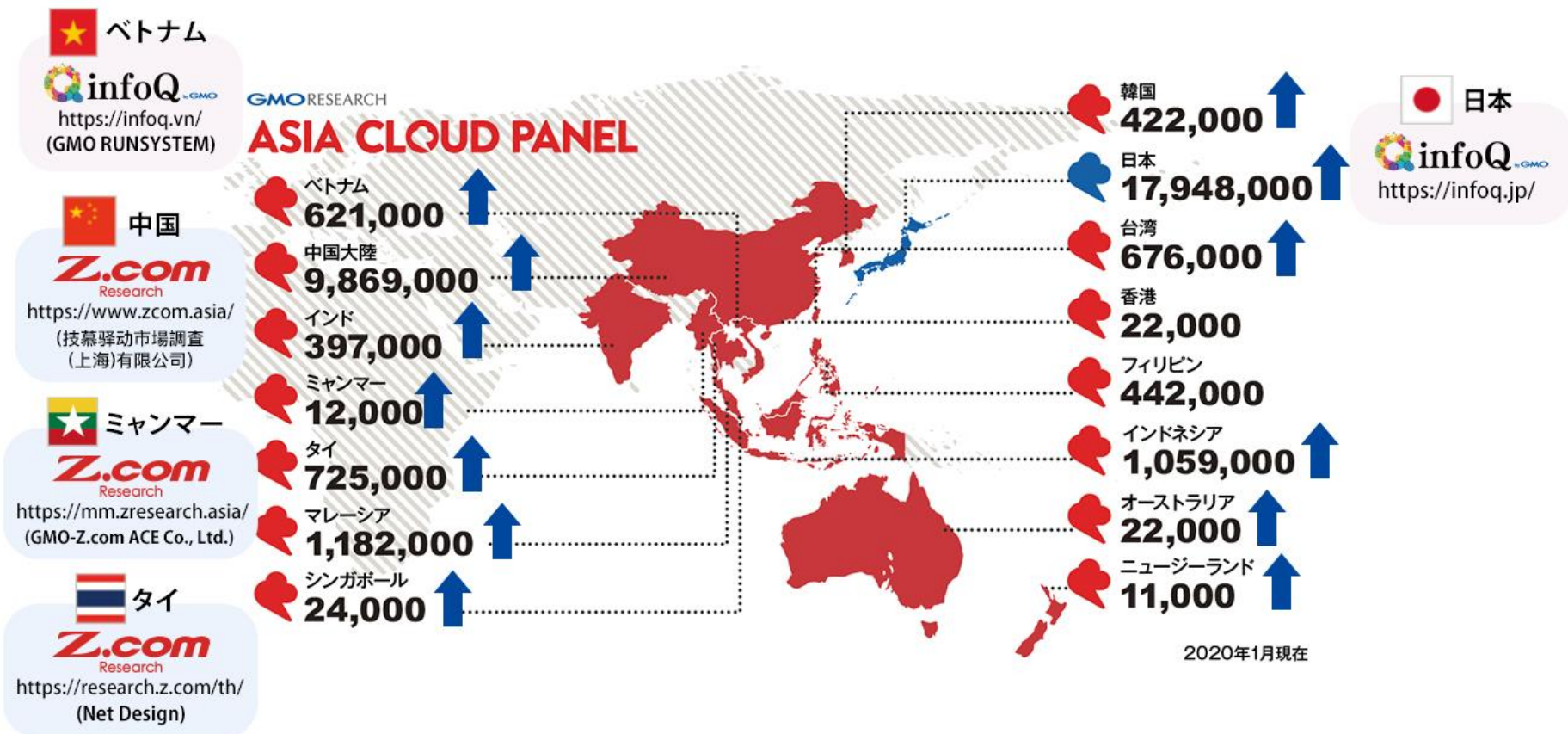
当社は今後こちらの市場に展開します。

- ・アジア地域のインターネットリサーチ市場はオンライン化が進み、今後さらに拡大すると予想
- ・欧米企業と比較し、日本からのアジア展開は地理的、文化的優位性あり
- ・まだ**アジア調査**でのビッグプレイヤーは不在のため、**圧倒的No1**を目指す

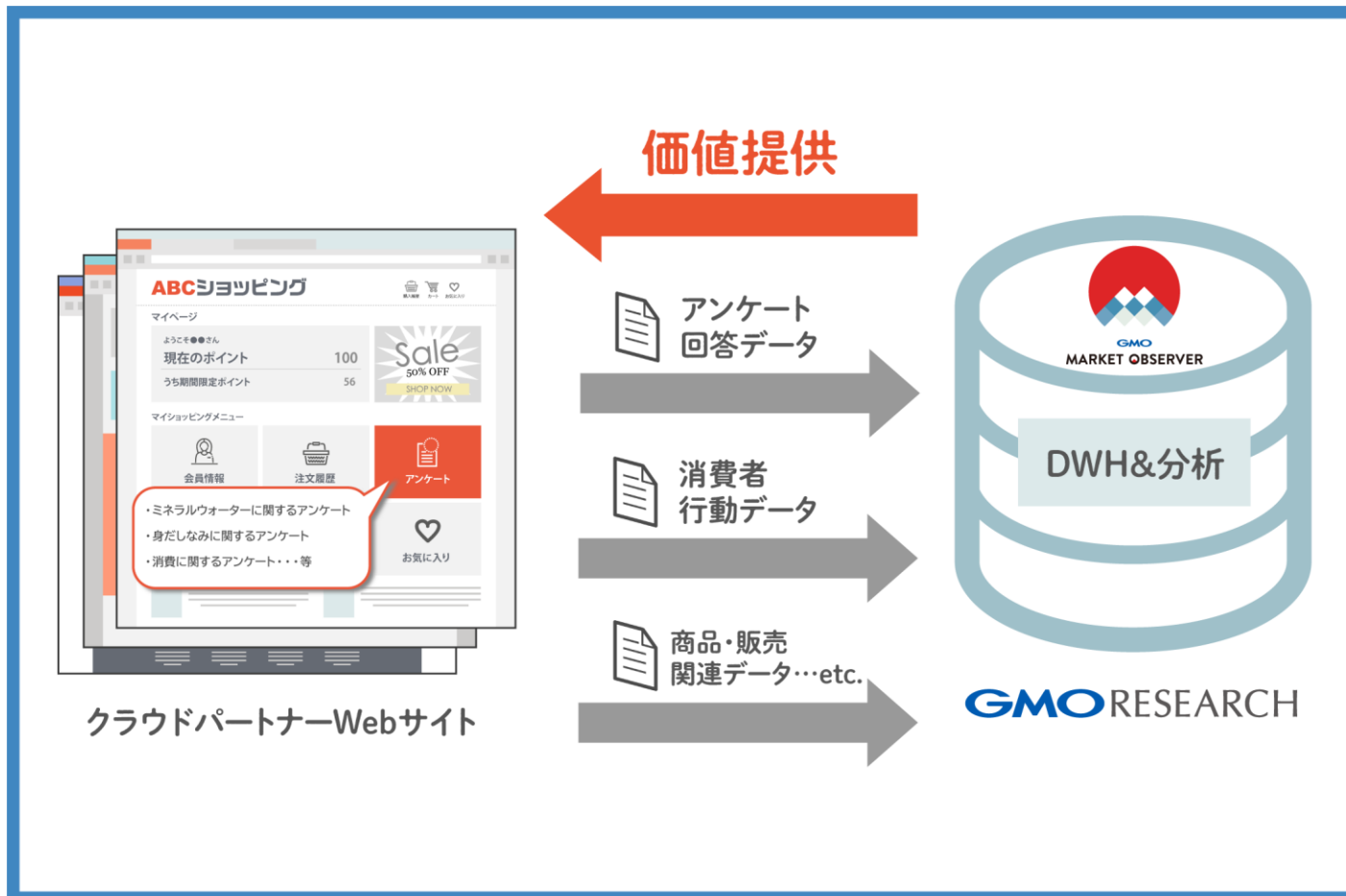


2019年 ESOMAR調べ

- ・ 自社媒体を含む、業界最大規模のアジアパネルネットワークを構築
- ・ アジア 15の国と地域 3,150万人超
 - 大型、複数ヶ国にまたがる案件等に対応可能であり、競争力、提案力が高い
- ・ ニュージーランドに続きミャンマーのパネルを追加



当社のクラウドパネルパートナーに対して、消費者の行動履歴やアンケートからの各種データなどを幅広く収集し、パートナーのデジタルマーケティングにおける最適化を付加価値として競争力を高めるコンサルティングを提供します。
(メンバーシップ・マーケティング・ソリューション)



4 <参考資料>

- サービス別販売先・サービス内容説明表
- アウトソーシングサービスとDIYサービス
- 各拠点人員数推移
- 配当還元方針

サービスの名称		販売先	サービスの内容
アウトソーシングサービス	Full Service	調査会社/ 広告代理店/ コンサルティング 企業	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでのアンケート画面作成・アンケート案内配信・アンケートデータの回収・クリーニング、集計といった一連の工程を一貫して提供します。 アドテクのプラットフォームと連携した広告業界向けサービスを提供します。(CPAT)
	Sample Supply		<ul style="list-style-type: none"> 顧客が自社内でオンラインでアンケート画面を作成している場合に、当社が回収管理を行い、顧客のアンケート画面に回答結果を提供します。
D.I.Yサービス	Self Sample Supply (SSS)		インターネットリサーチにおいて、当社がサービスインフラとパネルのみを提供します。
	システム関連売上		GMO Market Observerを顧客のリサーチプラットフォームとして提供します。
その他サービス	New MR/ コンベンショナル調査	一般企業	New MRとは、アイトラッキング調査、MROC、Scanamind（スキャナマインド*）、コミュニティといった最先端のマーケティングリサーチソリューションを提供するサービスで新たなプラットフォーム提供のための研究開発の役割を担っています。また、コンベンショナル調査は、オフライン（現場）で実施する調査手法であり、オンライン業務の更なる自動化のため戦略的に取り組んでおります。

*Scanamindは、株式会社クリエイティブ・ブレインズの登録商標です（登録番号第5109952号）

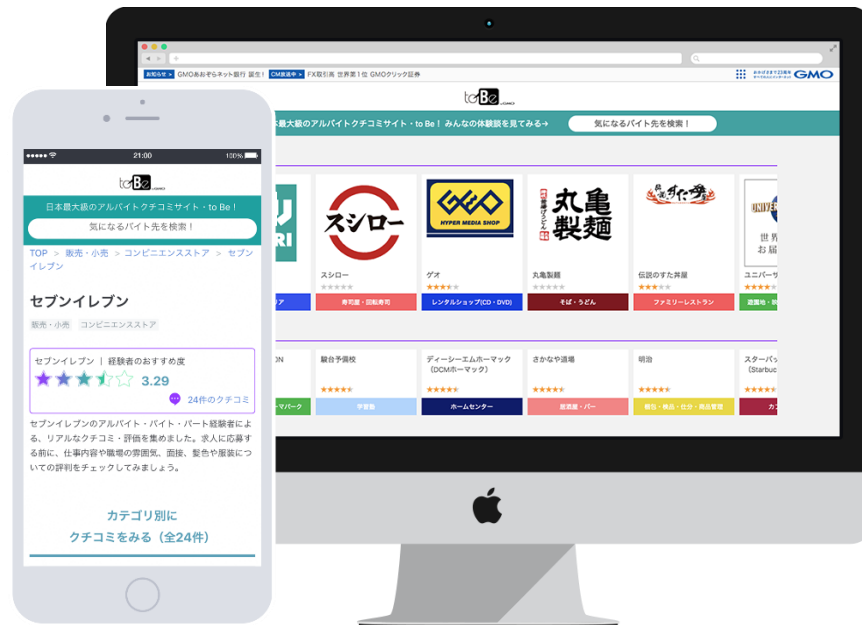
		アウトソーシングサービス		DIYサービス	
サービス名称		Full Service	Sample Supply	Self Sample Supply	システム関連 売上
業務工程	1. 調査設計	顧客	顧客	顧客	顧客 (注)
	2. 調査画面 作成	GMO Research	顧客	顧客	
	3. プロジェクト マネジメント	GMO Research	GMO Research	顧客	
	4. パネル管理	GMO Research	GMO Research	GMO Research	
	5. Cloud Panel 利用	GMO Research	GMO Research	GMO Research	

(注) お客様の中には、当社のCloud Panelをご利用にならない場合もあります。

当社のリサーチパネルから口コミを取得することで立ち上げた新規事業(to Be by GMOサービス)を、リサーチ事業へのフォーカスのために、2019年12月31日にGMOコマース株式会社に譲渡いたしました。



<https://www.to-b.jp/>



- ・ GMOインターネットグループが運営するアルバイトクチコミサイト
- ・ 全国**1,140**万人のGMO会員がアルバイト・パートの体験談を投稿
- ・ 現在、大手企業を中心に**1,000**社以上のクチコミを掲載中
- ・ **自社採用HP**の応募を増やす有料プランを2019年4月から提供開始

(単位：人)

各拠点における正社員数の推移

	東京	下関	シンガポール	マレーシア	インド	中国	正社員合計
拠点機能	<ul style="list-style-type: none"> 本社機能 国内欧米営業、PJ管理 国内パ° 礼管理 システム開発 	<ul style="list-style-type: none"> 国内PJ管理、営業補助 国内パ° 礼管理補助 その他業務補助 	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア営業 東南アジアパ° 礼管理 	<ul style="list-style-type: none"> ローカル営業 アジアパ° 礼管理、開拓 	<ul style="list-style-type: none"> 欧米、東南アジアPJ管理、営業補助 	<ul style="list-style-type: none"> 営業 PJ管理 中国パ° 礼管理 	
2017年1月1日時点	87	—	2	—	15	9	113
2017年7月1日時点	92	2	2	—	16	10	122
2018年1月1日時点	91	8	4	—	16	7	126
2018年7月1日時点	94	20	4	4	15	8	145
2019年1月1日時点	88	24	3	4	14	8	141
2019年7月1日時点	96	30	3	5	14	8	156
2020年1月1日時点	94	28	3	6	14	8	153
半期人員増減数	-2	-2	0	+1	0	0	-3
補足	事業譲渡に伴う転籍による減など	事業譲渡に伴う転籍による減など	—	パネル強化	—	—	—

- 2019年度の配当予想については、業績に連動した配当（配当性向50%）を目標とする配当の基本方針により、2019年最終利益に基づき、42.11円へ修正。

	2018年度	2019年度	2020年度
	実績	(計画)	(計画)
1株当たり年間配当金 (円)	44.65	42.11	46.61
総配当性向 (%)	50.0%	50.2%	50.0%
1株当たり当期純利益 (円)	89.34	83.95	93.21

想いを、世界に

Engaging people around the world

GMO RESEARCH

本日はありがとうございました。

本資料、および本説明会における質疑応答などにおける市場予測や業績見通しなどの内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断したものであります。従いまして、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを、あらかじめご承知おきください。